

# 令和6年度 学校評価(関係者評価)

## 学校教育目標「ふるさとを愛し、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

## 雲南市立寺領小学校

評価計画	保護者評価	学校関係者評価	次年度計画
中期経営目標	肯定的評価 目標値3.0以上	自己評価に対する学校関係者(学校評議員)の意見のまとめ	今後の取組の重点
特色ある教育課程の編成と充実	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで育てた作物を食べるといことは、食べ物や作ってくださる生産者さんたちのありがたみを知ることができ、また、達成感も得られるので、とてもよい活動だと思う。また、自分たちで栽培した物で、加工品づくりをしたり、売ったりして、とても楽しい活動になっている。</li> <li>「ふるさと教育」は、児童がふるさとの良さを発見し、ふるさとを大事に思う心を育てていく。寺領小の食と農の教育活動は、本校を象徴する特色であり、地域への愛着等をもたらす重要な活動である。</li> <li>ふるさと教育の充実や地域とのつながりについての先生方の評価、児童の評価とも高く、素晴らしいことだと思う。</li> <li>近年、気候が高温で活動時間や収穫に影響が出ているので、さらに工夫して活動されることを願う。</li> <li>地域人材確保のため「食と農」の応援団を呼びかけ募集されていることは、素晴らしい取り組みである。今後も情報発信、呼びかけを継続していくことが望まれる。</li> <li>加藤教育が根本にあると思うが、先生方が地域のことを大切に考えてくださり、地域と交流する活動をたくさん作っていただいているので、全校児童が地域のことや、人との関わりを喜んで体験しているように思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食と農」の活動は、金融経済教育の視点も踏まえ、どの学年が何をするかについて検討し、見直しを図りながら取組を進めていく。</li> </ul>
確かな学力の育成	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き取り会、計算会はモチベーションアップにつながっているが、取り組みがマンネリ化にならないようにさらに創意工夫されるとよい。</li> <li>保護者に家庭学習の手引きを提示し説明したことで、家庭の理解と協力が得られたことは成果である。家庭学習の質や量には個別に対応しなければならない面もあり、対応が大変であるが、全体的な底上げがなされることを願う。</li> <li>タブレットの活用で児童の家庭学習が意欲的になったことは、タブレット活用は今の子どもたちに合っているように思う。</li> <li>思考力・判断力・表現力の育成については、児童の評価が大変低い項目である。児童に、授業の場はもとより様々な生活の場で事象に能動的に向き合うこと、発言や意見を発表する場を保障していくことが重要と考える。</li> <li>「自主学習ノート」があるが、これは、自主的な学びを促す手段として機能しているのだろうか。自主的に学習させることは、児童に学習の喜びや達成感を感じさせることではないかと思う。</li> <li>朝読書がなくなったのは残念で、本に親しむ習慣を下支えする何らかの手立てが必要と感じる。図書ボランティアさんや読み語りさんの役割は大きいと思う。</li> <li>家読週間があることで、本を読む機会だけでなく親子のコミュニケーションの時間も増やすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットドリルを活用したり、書き取り会や計算会を今後も継続したりしていく。</li> <li>発言しやすい雰囲気を作りながら、児童の言葉で授業を作っていくことを心がける。</li> <li>児童の主体的な学びのためにも、導入をさらに工夫するなど、単元構成の工夫にさらに努める。</li> <li>家読週間の取組は、工夫しながら継続していく。</li> <li>家庭学習の手引きの配布、自主学習の取り組みを続けていく。</li> </ul>
豊かな心の育成	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢の活動を最重要に考えていただいていることは、素晴らしいことだと思うし、嬉しく思う。</li> <li>縦割り班を活用した活動は、高学年の下学期に対する優しさや思いやり、リーダー性を育てているようだ。本校では、良き伝統となっていて今後も受け継いでいってほしい。</li> <li>振り返りを大切にしたい取組が子どもたちの自信につながっているのが、素晴らしいことだと思うが、一方で頑張っている人に対する足の引っ張り合いやからかいなどが無いことを願う。見えないところで心から信頼できる関係を築いてほしい。</li> <li>児童の人権意識を向上させる様々な取り組みがなされていて、素晴らしいと思う。特に、多文化共生の意識を持った子どもが増えることで、人を温かく受け入れる風土が培われていくのだと思う。</li> <li>学級活動や児童会活動では、児童の主体的な取り組みにより活動が推進されることが肝要となるが、児童が自覚をもって取り組んでおり成果が上がっていると思う。さらに、自主性・主体性を引き伸ばしてほしい。</li> <li>日々の学校生活のなかでの「いいこと見つけ」「自主性を重んじる活動」「異年齢活動」などは、自己肯定感や自己有用感を感じ、集団の中で自分を認めてもらえる有効な手立てだと思う。それが児童の豊かな心を育てる原点になると思うので、今後もこれらの日々の活動を地道に継続してほしいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も継続して、友だちの良さや自分のよさに気付ける活動をしていく。気になる児童については、全職員で情報を共有し、協力して支援にあたっていくことで、一人一人が認められ、安心して過ごせる集団作りを進めていく。</li> <li>来年度も引き続き、人権集会や多文化共生教室を実施するとともに、普段の生活の中での言動を振り返りながら、お互いを大切する人間関係づくりを目指す。</li> <li>学級活動、委員会活動、その他の行事等でも、児童の主体性を重んじた活動を行っていく。また、事前指導、事後指導で児童の意欲を高めたり、良かったところを褒めたりしていけるとよいと思う。今後も振り返りの場などにおいて、児童同士でも良かったところなどを認め合っていく。</li> <li>6年生の主体性を生かした縦割り班活動をさらに充実したものにしていく。</li> </ul>
健やかな体の育成	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育以外でも、マラソン等の運動を行事に組み込んであり、子どもたちの体力向上や体を動かすことへの意識向上につながっていると感じる。</li> <li>体力向上の推進は、運動会・サンライズマラソン・なわとび集会等、見せてもらうことも多いが、児童も楽しんで活動しているように思う。</li> <li>運動に関する様々な取り組みがなされ、地域を巻き込んで児童の体力向上の機運を高めることにつながっている。校庭で遊ぶ姿が以前は少なかったが、現在はどうかだろうか。気になるところである。</li> <li>自ら進んで体を動かし、運動を楽しむ児童を育てるために、学校行事等を活かす工夫が伝わってくる。単発的にサンライズマラソンを実施するのではなく、継続して赤土マラソンを計画する等、点を線で結ぶような取り組みを今後も期待する。</li> <li>中学校区一斉の元気アップ週間とタイアップした取り組みが成果を上げているようだ。告知放送で、児童・生徒の声で放送されることも家族や地域の人への呼びかけになり、良き生活習慣の形成に活かされていると思う。</li> <li>基本的な生活習慣の確立が、児童の評価99%というのには驚いた。保護者の方の評価も良いが、私は先生方の評価80%と同じように感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気アップ週間や保健教育を通して、家庭と連携した取組や個別の指導を続けていきたい。</li> <li>遊具の整備、屋外で遊ぶ場の設定や雰囲気づくりを進めていく。</li> </ul>

保護者・地域から信頼される学校	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通知票が2期になったことに関しては、個人的には気にならない。</li> <li>・学校での様子について、希望家庭は、年に2回個人面談を受けられることになっているので、配慮されている。</li> <li>・お便りがメールで来るのは、紙を子どもが出していなかったり、紛失してしまったりしたとき、メリットが大きい。</li> <li>・学校通信・学級だよりはもとより、HPやメール等による情報発信がなされていて、学校の様子が適切に発信されている。会合の出欠確認など、QRコードによるものもあり、事務処理の効率化がなされている。</li> <li>・働き方改革等は、ITの活用等により保護者との連絡が便利になった面はあるが、人と人のコミュニケーションは大切なので、ある程度の時間は必要となる。古き良き時代に戻ることはできないが、大切なものは失わないようにお願いしたい。</li> <li>・日頃から学校と保護者や地域との関係は信頼関係の上に成り立っていると受け止めており、学校の好感度は高いと感じる。今後も保護者・地域との情報交換や地域への情報発信に努め、さらに強固な信頼関係を築いてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、学校便り、学級便り、ホームページ等で情報発信を続けていく。保護者へのメール配信については、さらに配布文書の検討をしながら進めていきたい。</li> <li>・個人面談や、学級面談、日頃の電話連絡などで、保護者の方との情報共有を引き続き行っていく。</li> </ul>
生徒指導の充実	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校中の子どもたちの挨拶の様子を見ると、学校での先生方の指導のお陰だと感じている。</li> <li>・学校生活では、多くの教職員の目や上級生の目もあり、落ち着いた学校生活を送られているのは素晴らしいことである。のびのび教室などの場でも、ルールを守った生活が自主的にできればと思う。</li> <li>・教育相談週間やアンケートQUなどを通して、児童理解を推進して個々の児童に寄り添った指導がなされているようだ。日常の学校生活や家庭や地域での生活の観察を参考にしながら、さらに児童理解を深めていってほしい。</li> <li>・教職員が児童に寄り添い、児童理解に努めようとする姿が見え、心強い。困り感のある児童の組織としての早期発見、早期対応に一層の注力をお願いしたい。</li> <li>・支援員の先生方が、たくさんいてくださって、とても安心できる。一人一人に寄り添う児童理解の充実という目標については、全教職員で情報を共有し、児童の思いに寄り添えるような声掛けをして児童理解に努めていただいていることを、本当に嬉しく思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も引き続き、廊下の歩行、言葉遣い、規範意識などについて、児童にも自分たちの行動について振り返る場を設け、改善に向けた取り組みを行っていく。</li> <li>・今後も、全教職員での児童理解、支援を継続していく。</li> </ul>
特別支援教育の充実	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の困り感を理解すること、発見すること、気づくことが特別支援教育にとって大切であるので、いろいろな機会をとらえ複数の目で今後も指導に当たっていただきたい。</li> <li>・今後もこれまで通り、児童個々の実態をは把握し、校内の支援体制を生かし、組織として配慮が必要な児童への支援を進めていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、保護者、関係諸機関との連携を図りつつ、支援員の配置時間を随時変更しながら、困り感を感じている児童への支援を充実させていく。そのために、全教職員で児童一人一人の状況等について情報交換をして共通理解をし、よりきめ細やかな支援を行っていく。</li> <li>・困り感のある児童への対応を担任に任せるのではなく、職員間でも声をかけあい、協力しながら児童の支援にあたるようにする。</li> </ul>
授業力の向上	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活のほとんどが授業の時間であるので、児童が授業の中で充実感を感じるよう授業が実践されていくことが求められている。働き方改革等により生み出された時間を授業実践の深まりにつなげていってほしい。</li> <li>・ICTの活用が児童の家庭学習の充実につながっているようであり、時代に即した取り組みに敬意を表したい。今後も、さらに工夫して活用されることを望む。</li> <li>・児童の興味・関心を大切にしたり、課題解決をしたいという児童の欲求が生まれたりするような授業をめざしておられることがわかり、嬉しい。多忙な毎日だと思うが、下ごしらえされた授業(準備された授業)をこれからも継続してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに児童の言葉を大切にしつつ、児童の興味・関心に沿った授業実践を行っていく。</li> <li>・授業や家庭学習でのタブレット端末の活用をさらに進めていく。授業での活用はまだまだ探究の余地があるため、目的に応じた使い方を模索していく。</li> <li>・児童のタイピングスキルが向上しているので、引き続きウェブサービス等を利用し、技能を高めていく。</li> <li>・今後、低学年の持ち帰りについても取り組みを進めていく。</li> </ul>
教育環境の整備	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金のこともあり難しい問題だと思うが、年々子どもたちが遊ぶ遊具がなくなりさびしい気持ちがある。</li> <li>・毎月の安全点検等、細やかな配慮はありがたい。教職員の皆様には、いろいろと苦慮や配慮をしながら改善されてより良い環境にさせていただき感謝している。</li> <li>・校舎周囲の環境整備作業は、地域の協力によりこれまで継続的になされてきている。地域も高齢化しこれまでと同じように作業ができなくなるかもしれないので、作業内容や方法については検討を加えていってほしい。</li> <li>・長年の懸念事項だった老朽化した危険なアスレチック遊具が撤去され、とてもよかった。今後も児童の安全確保のために行政側とも密な連携をとっていただきたい。</li> <li>・ブランコが設置され楽しそうに遊んでいる児童の姿を見かける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も遊具の修繕について、市教委と協力して進めていく。毎月の安全点検についても、継続して安全な施設管理に努める。</li> </ul>
<p>【評価規準】 4:十分満足 3:おおむね満足 2:改善を要する部分がある 1:大いに改善を要する</p>			